■広田弘毅　　庶民出ながら実力で出世。困難な時期に長く外相を務め，軍部追随を問われてA級戦犯となり，文官唯一の死刑に。
ひろたこうき
大久保暗殺・1878＝　　江戸時代の城下町で，現在は，福岡の中心天神になっている鍛冶町で，石材店{広徳}を営む広田徳平・タケの長男に生まれ，初名は丈太郎。父は箱崎の農家の出で，徒弟として広田家に入り，真面目さと仕事熱心が買われて，母と揃って，養子となっていた。
明治14年政変1881＝ 3歳：
妹1人，弟2人が誕生し，小学校にあがると，家計を助けるべく，藺草を売って歩きながら，苦学。成績は優秀で，老書家に習って，抜群に字がうまくなる。
国民之友始・1887＝ **9歳：**
帝国憲法発布1889＝11歳：この年，大隈重信に爆弾を投げ，つけ自決した国家主義団体{玄洋社}社員来島恒喜のために，父が立派な墓碑を一人で寄付したように，_父のつながりで，頭山満の{玄洋社}に出入り，"憂国の士"の素地ができ，
橋口大名尋常・高等小学校を卒業，福岡県立尋常中学_{修猷館}の予科から，
日清戦争始・1894＝16歳：_第2学年に編入。のちに名を成す俊秀に恵まれ，平田知夫と親友になる。
日清戦争終・1895＝17歳：当初は家計のため，陸軍士官学校への進学を志望していたが，_三国干渉に衝撃を受けて，外交官を志す。
白馬会・・・1896**＝18歳：**_{玄洋社}柔道場の明道館落成式で総代を務め，正式に社員になった。
禅僧に相談し，僧籍事由にすべく1年間入門。_{玄洋社}の平岡浩太郎から，平田とともに，学資を受け，
子規句歌革新1898＝20歳：卒業。_自ら"弘毅"と改名して，平田とともに，第一高等学校に入学。頭山満に挨拶に行き，その紹介で，内田良平からは{講道館}を，杉山茂丸から政界について教えられ，とくに，山座円次郎に気に入られる。
Bushidou・・1899＝21歳：_下宿を福岡県出身者の学生寮{浩浩居}と名づけ，副島種臣に扁額を書いて貰い，同窓会雑誌も発行。すでに顔見知りだった，{玄洋社}幹部で来島の同志だった月成功太郎の次女静子に世話をして貰い，
田中正造直訴1901＝23歳：卒業し，_東京帝国大学法科大学に入学すると，
教科書疑獄・1902＝24歳：_山座外務省政務局長からの依頼で，平田とともに，小冊子「日英同盟と世界の輿論」を刊行し，
日比谷公園・1903＝25歳：_密命を帯びて，朝鮮・満州を視察。外務省中枢の山座から，外交官としての心得を叩き込まれて行く。
日露戦争始・1904＝26歳：_日露戦争になると，松山捕虜収容所で通訳を行い，ロシアの情報を収集。
日露戦争終・1905**＝27歳：**_卒業。外交官領事官試験に，平田ともども，不合格。加藤高明からの縁談話を断って，静子と結婚。
満鉄発足・・1906＝28歳：韓国統監府に籍を置いて猛勉強し_再挑戦。首席合格。吉田茂と同期。
韓国反日暴動1907＝29歳：清国公使館付外交官補として，北京に赴任。公使は林権助。_平田とともに，外交官の道を歩み始める。
伊藤博文暗殺1909＝31歳：山座の計らいで，在英大使館三等書記官として，ロンドンのに赴任。大使は加藤高明であったが，
大逆事件判決1911＝33歳：参事の山座から，圧倒的な影響を受けて，第3次日英同盟の締結など，国際政治の中枢を体験。
明治天皇没・1912＝34歳：
大正政変・・1913＝35歳：帰国し，外務省(傍流の)通商局(アジアやロシア担当の)第一課長となる。_政客としての顔を見せ始め，
第一次大戦始1914**＝36歳：**_山座公使から，北京来任を要請されるも，山座が急逝。以後，微妙な関係の幣原喜重郎のもと，雌伏，
21ヶ条要求・1915＝37歳：「対華二十一ヵ条要求」を最後通牒の形で出すことには反対するも，加藤高明外相に，黄河浚渫権を進言。
本格政党内閣1918＝40歳：_山座亡き後，よりどころにしていた親友平田知夫も死去して，落胆。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝41歳：駐米大使館一等書記官を命じられ，途中，サンフランシスコで，外交官として初めて，日本人移民の実態調査を行い，歓迎を受ける。幣原大使のもと，冷遇されるも，若手に慕われる。
原敬首相暗殺1921＝43歳：帰国し，新設の情報部(欧米担当の)第二課長。この年のワシントンなど主要な国際会議は体験できずに，
水平社結成・1922＝44歳：_{外交時報}に，天羽英二が執筆した，幣原を擁護する「江木翼氏の"四国条約と米国保留"を読む」が，広田名義で掲載されたこともあってか，
関東大震災・1923**＝45歳：**情報部次長に昇格，第2次山本内閣発足で*欧米局長になり，各界から，将来を嘱望されるようになる。
護憲三派圧勝1924＝46歳：_面倒を見続けてきた{浩浩居}が財団法人になる。加藤高明内閣"幣原外交"のもと，対ソ改善に取組み，
治安維持法・1925＝47歳：_日ソ基本条約締結にこぎつける一方，後藤文夫らによる組織{新日本同盟}に参加して，政治にも進出。
円本時代始・1926＝48歳：幣原とは折り合いがつかず，公使に出されることになり，オランダを希望して，
金融恐慌・・1927＝49歳：ハーグに着任。蘭印の経済性の将来などについて，情報収集に努める。在任中，母が死去。
共産党事件・1928＝50歳：_パリでの不戦条約に調印した元外相内田康哉が，世論に攻撃された際，ロンドンに内田を訪ねて進言，
世界恐慌・・1929＝51歳：_ドイツ賠償問題ハーグ会議の日本代表，国際連盟総会で日本全権代理となり，初めて国際会議を体験。
海軍軍縮条約1930＝52歳：途中，満州里で，次男自殺の悲報に接して，帰国。_ようやく，駐ソ連の，初で最後にもなる大使になり，東京駅で見送られるなか，浜口首相狙撃事件に遭遇。
満州事変・・1931＝53歳：対ソ関係の緊迫に，_幣原の電報を握りつぶし，リトヴィノブ・ソ連外務人民委員に日本政府の事変不拡大方針を通達，駐在大使・公使が各国政府の信頼を失う中，ソ連の信頼を獲得し，運命が劇的に好転，
五一五事件・1932**＝54歳：**_カラハン外務人民委員代理との漁業協定締結など，関係維持に成功して帰国。政治団体{国維会}に接近，
国際連盟脱退1933＝55歳：{大亜細亜協会}設立委員などの後，*高齢で辞任する内田の推薦で，斎藤実内閣の外相に就任。新任挨拶で，駐日米大使グルーの信頼を得る。5相会議で，荒木陸相らと渡り合い「皇国国策基本要綱」を骨抜きに。
帝人疑獄事件1934＝56歳：_{中央公論}に「日本外交の基礎」を発表し，帝国議会で「万邦協和の大精神」演説。東アジアでの覇権を謳った外務省情報部長"天羽声明"で，グルー大使らへの釈明に追われるが，クライヴ駐日英国大使に日英米不可侵協定の締結を提起するなど，英米と親善にも努め，斎藤内閣総辞職後も，岡田啓介内閣の外相に留任。ソ連との間で懸案となっていた，東支鉄道買収交渉を妥結させ，大きな功績になる。
芥川直木賞始1935＝57歳：_帝国議会で，'私の在任中に戦争は断じてない'と"協和外交"を唱え，中国との不平等条約撤廃，駐華日本公使を大使に昇格させ，"広田外交"の絶頂に至るも，陸軍の反発を買い，梅津・何応欽，土肥原・秦徳純協定締結を止められず，中華民国親日派の失望する"広田三原則"で，外・陸・海の3大臣妥協し，変節。
二二六事件・1936＝58歳：{浩浩居}の新家屋を杉並区松庵に建立。*岡田内閣が「北支処理要綱」を閣議決定。二・二六事件後，近衛が辞退したため，首相を引き受けさせられ，天皇からは名門出でないことを危惧されるも，事態を収拾。"石屋の倅から総理大臣へ"の立身出世が話題になり，この年完成の「帝国議会議事堂」に初めて登壇した首相にもなった。ソ連と相互に国境紛争処理委員会を設置，文化勲章を制定などするが，軍部大臣現役武官制の復活，思想犯保護観察法の成立，"国策の基準"の決定など，軍部の意に追随することになり，
日中戦争始・1937＝59歳：_議会での"割腹問答"が起こり，閣内不統一を理由に総辞職。貴族院議員に勅選され，首相になった近衛文麿の要請で，再び，外相に就任し，企画院総裁を兼任。盧溝橋事件が勃発，日中戦争が始まると，不拡大方針を主張，外交的解決を目指し，ディルクセン駐日ドイツ大使に和平条件を提示するなどしたが，近衛内閣の'国民政府を対手とせず'声明で破綻。レディバード号事件でクレーギー駐日英大使を訪れて謝罪，パナイ号事件でグルー駐日米大使を訪れて謝罪するなど，なお，英米親善の顔を見せるも，部下たちは失望。
健保+総動員 1938＝60歳：_帝国議会で'事変解決の見込なく，新興支那政権の成立発展を期待'演説し，近衛内閣改造で，外相辞任。
大政翼賛会・1940＝62歳：_米内光政内閣の参議に就任。米内内閣が倒れると元首相として，後継首班を決める重臣会議に出席し，第2次近衛内閣が成立。松岡洋右の外相起用に反対，日独伊三国軍事同盟締結にも，英米を敵にすると反対。
日米開戦・・1941**＝63歳：**_東郷茂徳ら，貴族院の23人で，{無所属倶楽部}を結成。続いて，第3次近衛内閣，東条英機内閣の成立に賛成，対米交渉に悩み，辞任しようとした東郷を慰留。日米開戦にあたっての重臣会議にも出席。
・・・・・・1942＝64歳：日タイ同盟慶祝特派大使としてタイに派遣される。_戦争終息に苦慮し，対策に奔走するも叶わず，
年金+総武装 1944＝66歳：_{玄洋社}社長に進藤一馬を推挙し，頭山満死去に，葬儀委員長を務める。さらに，小磯国昭内閣が成立。
敗戦・・・・1945＝67歳：*昭和天皇に拝謁し対外政策について奏上。鈴木貫太郎内閣が成立後，東郷の意を受けて，マリク駐日ソ連大使と戦争終結について4回会談するも成功せず，敗戦。マッカーサーの命で，A級戦犯として逮捕され，
新憲法公布・1946＝68歳：巣鴨プリズンに収容され尋問を受け，"対アジア侵略の共同謀議"や"非人道的な行動を黙認した罪"，とくに，日中戦争を始めたことを問われて起訴され_東京裁判開廷。{玄洋社}が問題となり，妻静子が服毒自殺。
新憲法施行・1947＝69歳：担当のスミス弁護人が'法廷の不当なる干渉'発言で退廷，安東義良補佐弁護人も辞任し，ジョージ・山岡が担当弁護人になる。_検察の尋問には多弁で，戦争責任すら認めるも，自己弁護することはなく，
極東裁判決・1948＝70歳：山岡弁護人が広田に対する最終弁論。東京裁判が休廷に。再開された東京裁判で，_わずか1票差で，A級戦犯としては，文官でただ一人絞首刑に処された。"和平派"と思われていたこともあって，減刑嘆願署名運動が起こり，判決への疑問は今なお，語り続けられているが，日中戦争で大きな役割のあったこと，右翼団体{玄洋社}との関係が，昭和天皇から，最後まで疑われたことが大きかったようだ。

服部龍二「広田弘毅 "悲劇の宰相"の実像」，Wikipedia，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，